2022 年度 幼児造形事業 成果報告

2023 年３月

金城大学短期大学部　森田 ゆかり

≪おもな事業内容≫

実施日時		会場	内容		参加数
6/22	13:15 ～14:45	宇ノ気生涯学習センター	幼児造形研修会①	絵を読む会（5 歳児）	17
8/23	9:30 ～11:00	ひまわりこども園	5 歳児公開保育（オンライン）	「水・砂・泥と遊ぼう」	
	13:15 ～14:45	議会庁舎	幼児造形研修会②	絵を読む会（4 歳児）	11
8/29	13:15 ～14:45	中央図書館	幼児造形研修会③④	実技講習　造形遊び（教材研究） ・墨汁＋割り箸 ・コンテ ・墨汁＋割り箸＋コンテ	37
8/31	13:15 ～14:45	市役所			39
9/13	9:30 ～11:00	高松こども園	2 歳児公開保育（オンライン）	「好きな遊びを楽しもう！」	
	13:15 ～14:45	市役所	幼児造形研修会⑤	絵を読む会（2 歳児）	19
10/19	13:15 ～14:45	議会庁舎	幼児造形研修会⑥	絵を読む会（3 歳児）	13
10/29	13:00 ～15:00	高松産業文化センター	2 歳児公開保育事例検討会	9/13 公開保育「好きな遊びを楽しもう！」の事例検討	32
	15:30 ～17:00		5 歳児公開保育事例検討会	8/23 公開保育「水・砂・泥と遊ぼう」の事例検討	25
11/16	13:15 ～14:45	宇ノ気生涯学習センター	幼児造形研修会⑦	遊び・表現を読む会（1 歳児）	17
12/14	13:15 ～14:45	議会庁舎	幼児造形研修会⑧	遊び・表現を読む会（0 歳児）	12
2/18	14:00 ～16:45	高松産業文化センター	第２回かほく市こども園職員会研修会	・講演　和泉誠先生「0・1・2 歳児の遊びと表現　－ 素材と向きあう － 」 ・県実践研究発表報告 ・研究委員会中間報告　他	132
通年		各園	展示	玄関付近にアートコーナーを設け、現在進行形の造形活動を随時展示	

≪公開保育≫

コロナ禍のため、2020 年度、2021 年度に続き、今年度も公開保育の回数を２回に限定し、オンラインで実施した。クラス担任以外に保育室に入るのは、指導保育士、森田、撮影者だけである。活動の様子をビデオで撮影し、後日、市立こども園に動画を配信した。

コロナ禍でも「公開保育」を途切れさせないための苦肉の策であったが、この方法は思いのほか功を奏している。何よりも、いつも通りの子どもの自然な姿を見ることができる。また、保育者は時間のある時に、いつでも、何回でも視聴することが可能である。

すでにかほく市のこども園では当たり前であるが、よくありがちな「公開保育用」の気負った活動ではなく、前日までの積み重ねがあっての「今日の活動」、そして明日以降へもつながっていく保育であった。

８月 23 日「5 歳児公開保育　水・砂・泥と遊ぼう」より

ある日、雨樋を使って水を流して遊んでいる時にできた水たまりを、「温泉みたい！」と見立てたことから温泉づくりが始まった。戸外に置いてあったペットボトルの水が温かくなっていることに気づくと、園庭のあちこちにペットボトルを置き、どこに置くと、より温まるのかを考え、「お湯づくり」を試みた。公開保育当日、前日から置いてあったペットボトルに指を入れ、お湯になっていることを確かめ合い、掘った穴にお湯を入れる。「恐竜が見える温泉にしたい」と言い、廃材で恐竜をつくり飾る子どももいる。イメージをみんなで共有し、思考し、友達と一緒に試し工夫している。公開保育はその一部であった。

９月 13 日「2 歳児公開保育　好きな遊びを楽しもう」より

子どもが「自ら遊びたくなる環境」、一人ひとりが「何をしたいか選ぶことができる環境」が大切であると考え、遊びの環境を見直してきた。公開保育当日、粘土遊びを選んだ子どもは、自分でシートを広げ、必要な物を準備し遊び始めた。こねたり、伸ばしたり、ちぎったりと感触や行為を楽しむ姿、たまたま生まれた形から、何かに見立てて遊ぶ姿などが見られ、傍で見守る保育者に「先生、見て～！かいじゅうできた」「これ、チーズだよ」と満面の笑みで自分の思いを言葉で伝え、楽しさを共有していた。

≪公開保育・事例検討会≫

10 月 29 日、動画を視聴した保育者の代表が集まり、未満児（0,1,2 歳児）保育者を対象に「2 歳児公開保育・事例検討会」、以上児（3,4,5 歳児）保育者を対象に「５歳児公開保育・事例検討会」をそれぞれ実施した。

昨年度の「事例検討会」では、動画視聴の感想や質問を事前にまとめ、それらに応える形で、「公開保育」担当者と、実践に立ち会った森田が、参加者にスライドを見ていただきながら話を進めた。効率的ではあったが、やはり参加者は話を聞くだけの受け身になりがちであった。今年度はそれを改め、「検討会」の場でグループごとに話し合い、質問し、対話が生まれる形にした。

≪幼児造形研修会≫

「幼児造形研修会」として実施した５，４，３，２，１，０歳児それぞれの「絵を読む会」、２回の「実技研修」については新たな試みが幾つかあった。

- 昨年度に続き、これまで研修の機会があまりなかった方々が優先的に参加できるよう、平日の午睡時間に設定し、会計年度任用職員の方々も多数参加することができた。
- 昨年度は 90 分の中で「実技研修」と「絵を読む会」の両方を体験する形であったが、今年度はそれぞれを分け、「実技研修」も「絵を読む会」も 90 分とした。参加者からは「絵を読む会で 90 分も話せるのか不安だったが、とても楽しく、時間が足らないくらいだった」という声が多く聞かれた。

・ 「絵を読む会」は年齢別に設定し、これも好評であった。
・ また、0，1 歳児に関しては「遊び・表現を読む会」とし、絵にこだわらず、例えば、感触遊びとして、フリーザーバッグやビニール袋の中に何かを入れて遊んだものや、ものに関わろうとする、ものと関わっている子どもの様子などが分かる写真などでも OK とした。

「絵を読む会」の際の呟き、対話がきっかけになり改善されたこと、次の「実技研修」の内容が決まることもあった。また、「実技研修」での保育者自身の造形遊びが、それぞれの園での子どもの遊びに反映し、その作品が「絵を読む会」に持ち込まれるなど、取り組み全体につながりが見られるようになったことが印象的であった。

「絵を読む会」の感想より

- ファシリテーターの先生が話しやすい雰囲気をつくってくれたので良かった。
- お互いの思いを認め合い話し合いすることで、安心して発言することができ、相手の意見も受け入れやすくなったと感じた。
- 話しやすい雰囲気で有意義な時間だった。
- 温かい雰囲気で発言もしやすく、そのような雰囲気づくりは「絵を読む会」だけではなく、保育の中でも必要なことだと思った。

上記 4 つ目の感想は、まさにその通りである。保育者の肯定的で温かい雰囲気があることにより、子どもは安心してやりたいことをやる。それを保育者が見守り、認め、ともに喜びと感じ、子どもたちは自然体で表現していく。好循環が生まれている。

0,1,2 歳児の「育児担当制」導入ともうまく連動した。『美育文化ポケット 34 号』にかほく市の取り組みが合計 8 ページにわたり掲載されたことは大きな喜びであったが、その対談の中で、槇英子先生が次のように話された。「何か作品を残すのではなく、小さい人たちの行為を表現として捉えて、それをきちんと意味づけをする。そのための工夫や環境を作ることに保育者の仕事があるという、その辺の理解がようやく進んできたということでしょうか。」

今後の課題もある。「造形」とは、何か作品をつくること、「作品をつくらせなければ」というとらわれから解放され、小さい人たちの行為を表現として捉えること、造形遊びを重視するようになってきたことは、とても喜ばしいことだが、作品づくりを否定している訳ではない。4 歳、5 歳頃になると、これまでの経験や体験、園や家での生活、身の回りのことをもとに「表したいこと」を心の中にイメージし、それを形にしたいと思うことは、とても自然なことである。例えば、5 歳児公開保育で「恐竜が見える温泉をつくりたい」という子どもがいて、自由遊びの時に試行錯誤しながら廃材で恐竜をつくっている姿が見られた。そのような子どもの思いをどのようにサポートしていくのか、今後、考え実践していきたいものである。

保育に正解はない。5 年目の事業を終え形が整ってきたが、「これでいい」と思わず、常に問い続けながら、崩しながら、再構成していく勇気は必要であり、そのことはとても楽しいことである。今後も、保育者一人ひとりが主体的に考え、共有する時間、対話する時間を大切にしていきたい。